

いる。語り合える場所であることが美術館のあるべき姿である。」

数々の印象的な言葉とともに大変有意義な講演会となりました。

来年度の高校美術展は、12月上旬に相馬市のスポーツアリーナそうまで開催されることが決定しています。震災後初となる相双地区での開催を大いに盛り上げるために、これから各地区で行われる実技講習会や研修会で研鑽を積み、さらに素晴らしい作品が制作、出品されることを期待しています。

なお、今回の高校美術展出品作品の中から来年

度の全国高校総合文化祭佐賀大会への出品作品が選ばれ、下記の通りに決定しました。

第43回全国高等学校総合文化祭（佐賀大会）参加推薦者

福島工業高校 2年	伊藤 航	「ライト」
福島工業高校 2年	菊池くるみ	「取り繕った心」
光南高校 2年	小林 奈緒	「冬人夏草」
相馬高校 2年	土屋巳早希	「初夏」
原町高校 1年	橋本和佳奈	「落下する某日」
白河旭高校 1年	矢内 彩裕	「食彩」

以上 6 名

第 43 回全国高等学校総合文化祭(2019 さが総文)美術・工芸部門
福島県推薦作品(2018 年 10 月決定)



福島工業高等学校 2 年 伊藤 航「ライト」



福島工業高等学校 2 年 菊池 くるみ「取り繕った心」



光南高等学校 2 年 小林 奈緒「冬人夏草」



相馬高等学校 2 年 土屋 巳早希「初夏」



原町高等学校 1 年 橋本 和佳奈「落下する某日」



白河旭高等学校 1 年 矢内 彩裕「食彩」

書道専門部

専門部委員長 小野 俊彦〈郡山萌世高等学校〉

【活動内容】

- ①全国高等学校総合文化祭長野大会への出品ならびに生徒派遣
- ②生徒実技講習会および席書批評会の実施
- ③福島県高等学校総合文化祭書道展の開催
- ④福島県書道生徒強化錬成会の実施

【活動内容の紹介】

1. 第42回全国高等学校総合文化祭長野大会への出品ならびに生徒派遣について

期 日：平成30年8月7日(火)～8月9日(木)

会 場：長野県松本市

松本市美術館・松本市民芸術館

福島県からは、次の5名を代表生徒として派遣し、作品が展示された。

橘高等学校

臨書「九成宮醴泉銘」 柴田 姫那さん
学校法人福島高等学校

創作仮名「わが苑に…」 迫 優希那さん
安積黎明高等学校

臨書「真草千字文」 吉田理彩子さん
白河高等学校

臨書「針切」 佐藤 真衣さん
学校法人石川高等学校

臨書「牛樞造像記」 高橋 瑞歩さん

書道部門は、各都道府県から選抜された「漢字」、「仮名」、「漢字仮名交じり」、「篆刻」、「刻字」など300点の作品が展示された。松本市の中央部に位置する松本市美術館において作品の展示、美術館の近隣、徒歩5分ほどに位置する松本市民芸術館において交流会や講習会が開催された。作品は全国の地区毎に展示されており、それぞれの傾向が感じられる。展示作品については福島県の生徒はもとより、全国の生徒達は作品制作に真摯に向き合っていることを彷彿とさせる、完成度が高

く、エネルギーにあふれ見応えのあるものばかりであった。

福島県の出品作品も、大作が並ぶ中、各作品ともにレベル的に遜色ない力作揃いであったように思う。本県の書道専門部主催で夏休み期間中に実施している生徒実技講習会並びに席書批評会以降、出品にいたるまでの生徒の努力と顧問の先生方のご指導に敬意を表したい。

8月8日(水)午後からは、松本市民芸術館ホールにて開会式が開催された後、「交流会」が行われ、全国から参加した300名の生徒が長野県に関連した名前が付けられた30の班に分かれ、地元高校生のリーダーの指導のもと、長野県南部の特産「水引」を用いての筆置き等の細工、信州特産の杉の木のコースターに思い思いの言葉を揮毫し、班の中で交換した。

自分の思いがこもった言葉を揮毫し同じグループの人と交換した。長野大会参加のとてもよい記念になったようである。

3日の午前には講習会が行われた。作品の講評に加え、前日の午後に行われた各作品の審査結果が発表されたが審査の結果、本県から入賞はなしであった。なお、長野大会書道展の審査結果一覧については、インターネット上に公開されており、詳細についてはそちらを参照されたい。

2. 生徒実技講習会および席書批評会の実施について

期 日：平成30年8月3日(金)～5日(日)

場 所：福島県青少年会館

(1) 生徒実技講習会（席書批評会）

講習内容：福島県高等学校総合文化祭書道展
に向けての錬成、作品制作

講 師：学校法人松韻学園福島高等学校
菅野忠信先生

参加校：10校

参加人数：81名

参加校・参加者は、昨年度と比較すると参加校は同じだが、生徒16名増となった。

この生徒実技講習会、席書批評会は福島県総合文化祭書道展に向けて専門部の強化を目的に実施されているが、生徒同士の交流も深まり、お互いを意識しながら作品制作に取り組むことが出来た。例年、大研修室で錬成を行ってきたが、本年は生徒数の増の関係で、他の研修室もお借りして実施した。生徒たちは集中して作品制作に取り組んでいたように感じられた。

この会は、学校の枠を超えて他校の先生からも指導を受けることができる上、生徒間の交流を深め、新たな出会いができることなど、書道を通してできる県内高校生の最も大切な機会になっている。また、共通の課題である書を通して自分以外の友人を知り、自己の作品制作のための良い動機づけとなっている。夏の出会いが、次の発表の場である秋の県高総文祭書道展での再会に結びついている。

3. 第37回福島県高等学校総合文化祭書道展の開催について

期 日：平成30年10月6日(土)～8日(月)

会 場：とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）

参加校は、昨年より1校減の35校、出品点数は43点減の248点であった。昨年まで、福島市アクティブシニアセンター AOZ にて6年間開催してきたが、2020年度に開催される「全国高等学校書写書道教育研究大会『福島大会』」を想定し、今年度は「とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）」での開催となった。今年度も県北の生徒・顧問のご協力のもと、会場設営、作品陳列、撤去等は、地元の生徒を中心にスムーズに行なわれた。

今年度、ふくしま未来研究会の補助事業により、出光美術館学芸課長笠嶋忠幸博士をお迎えし、「書

く楽しみ、見る楽しみ - 書の制作と鑑賞について」というタイトルで講演等、ご指導をいただいた。

生徒たちは笠嶋先生の実践を踏まえた学術研究の成果に熱心に耳を傾けていた。

来年度、全国高総文祭書道展佐賀大会推薦作品の審査も併せて実施され、下記の5校の生徒を福島県代表として推薦した。

大 賞 穴戸 聖奈（福島西高校2年）

準大賞 佐藤 佑美（学校法人福島高校2年）

〃 佐藤 麻衣（会津学鳳高校2年）

〃 清野 里那（安積黎明高校2年）

〃 佐藤 朱音（白河高校2年）

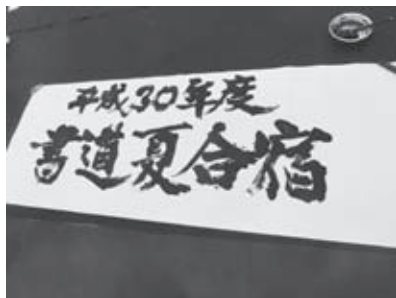
また、3年生の出品優秀者として特別賞が、学校法人石川高校の高橋瑞歩さんに贈られた。

4. 平成30年度福島県高等学校書道生徒強化錬成会について

期 日：平成31年1月5日(土)～6日(日)

場 所：郡山自然の家

昨年度まで、福島市の福島県青少年会館にて実施していたが、会館の耐震工事の関係で今年度は、郡山自然の家での開催となった。高文連の専門部強化事業として、来年度全国高等学校総合文化祭書道展佐賀大会の出品推薦を受けた生徒5名が参加した。外部講師として創玄書道会所属の大野治夫先生をお迎えし、二日間にわたって作品制作の指導を受けた。各校参加生徒は非常に熱心、かつ意欲的に活動に取り組み、作品のレベルアップを図ることができた。来年度の佐賀大会では「チーム福島」で全国大会に臨んでほしい。強化錬成会に参加した福島県代表生徒の活躍を期待したい。



実技講習会①



実技講習会②



県総文祭①



実技講習会③



県総文祭②



県総文祭③



県総文祭④



強化練成会①



強化練成会②



強化練成会③

写真専門部

専門部委員長 石山 文雄 〈勿来工業高等学校〉

*全国総文祭信州大会にて

写真専門部の理事として、安曇野市で行われた写真展を視察してきました。写真展会場は安曇野市にある豊科近代美術館でした。会場は著名な高田博厚の彫刻、宮芳平の洋画、奥村光正の作品を常設展示しており、日本アルプスの山々に囲まれた荘厳な雰囲気を持つ美術館でした。展示は、美開催県の高校生の作品を通路に、各県代表の作品を各部屋に展示していました。荘厳な美術館の雰囲気にも負けず、力作揃いでした。特に優秀賞作品は、高校生にレベルをはるかに超えたもので、一緒に見学に来ていたプロカメラマンからは、私たちでもこのような作品は撮れないという声が聞かれました。そんななか、最優秀賞の文部科学大臣賞に選ばれたのは、同じ東北の山形県立酒田光陵高等学校の佐藤礼恩さんの作品「ひだまり」でした。



(文部科学大臣賞 佐藤礼恩「ひだまり」)

「朝か夕の美しい光線が注ぐ中、ホームで丁寧に雑草を刈り取る様子が、何気ない風景であっても、かけがいのない時間であることが伝わる作品です。」いかにも高校生の目線にとらえた作品のように感じ取れました。

必ずしもカメラの機能や写真技術の優劣ではなく、高校の視点が重視され、若者の感性を表現している作品が最優秀賞を受賞したように思えます。

高校生の視点で撮られた作品が選ばれたことで、参加した各県の理事たちも、なぜかほっとしたようでした。昨年、全国制覇をした磐城桜が丘高等学校戸田泰成君の作品と同じ観点で審査が踏襲されているように感じました。

*写真展要項に関して

• 組み写真

今年度、県写真展の出品要項を平成28年以前のものに戻しました。これによって、写真展では組み写真について混乱が生じないかと危惧しましたが何ら混乱もなく、写真展を無事終えることができました。今後も全国の規定に準じて、現在の出品要項を順守してもらいたいと思います。要項の作成にあたって、東京工芸大学芸術学部の川島崇志先生にご協力をいただきました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

• 出品者の著作権

本県の写真展要項には、これまで著作権の取り扱いについての記述がありませんでした。他県にお伺いしましたところ、必ず明記するという県も少なくありませんでしたので、第2回写真専門部理事会で、次年度から要項に次の文を加えるように提案して認められました。

「高文連主催の写真展の出品において、著作権については出品作品の撮影をした者にあり、著作権の2次使用権は高文連にある。(従来の考え方とおりである) また、高文連は、被写体が人物の場合、肖像権はすでに被写体から許可を得たものと判断して取り扱う。」要約すると、出品そのものが、著作権や肖像権について高文連の使用に同意したということであり、高文連は著作権者や肖像権者の同意を得ずに使用できるという意味です。この考えは、著作権法第32条第1項に基づく

と考えられます。しかしながら、今の時代、国民は個人情報に敏感ですから著作権者に再確認するのが、親切的やり方ではないかと思います。

・写真展審査委員長

全国総文祭写真展の視察で気づいたことは、県写真展審査委員長のハービー山口氏が全国総文祭写真展の審査員を務めていたことです。昨年度、本県作品が文部科学大臣賞を受賞したのは、先生の慧眼に他なりません、必然の結果のように思えます。考えてみれば、ハービー山口先生が、全国大会の審査委員の指導者のような立場です。このように第一線でご活躍されている写真家を紹介し、さらに毎年写真展の振興に寄与してくださる、戸部記念財団に対し、心より感謝申し上げます。



(県写真展、ハービー山口氏の講評及び講演会)

ちなみに、次年度の全国大会に推薦された作品は、多くは県南地区の出品です。先生方はハービー山口氏の人柄を理解しているのではないかと思います。皆さんをご存知のように、ハービー山口氏は、風景よりは「人物、家族」を、大きなイベントよりは、「日常的の些細な出来事」に価値を見出しているように感じられます。震災の悲惨な状況を伝えるのではなく、その中に「将来につながる希望」を表現する方です。

次年度、ハービー山口氏が審査委員長でしたら、この点に留意して作品を完成させてはどうでしょうか。

*写真展の実施結果について

平成30年12月13日(木)～12月16日(日)

とうほう・みんなの文化センター

参加校数 32校、参加生徒－教員数 232名

作品数 627点、来場者数 291名

佐賀総文祭への推薦(最優秀賞5点、優秀賞3点)

渡邊 幸奈「紅を差す」(安積2年)

渡邊 康広「それっ 行け!」(安積2年)

桑名 深悠「Castle in the Lake」

(会津学鳳2年)

兼子 喜史「あたたかい場所」(白河2年)

田母神音和「繭」(安積2年)

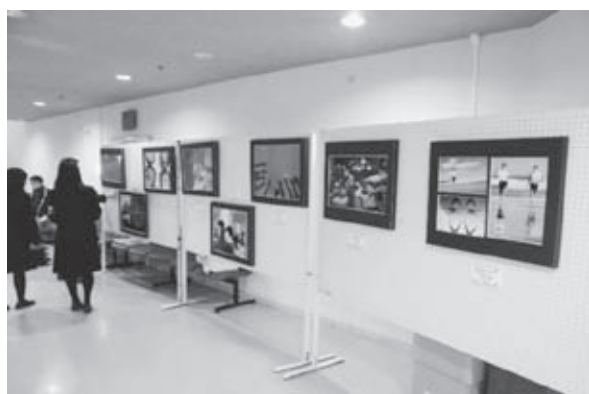
桑原 里歩「アオリンゴ」(郡山東1年)

金子 真萌「孫の喜び、私の幸せ」(白河2年)

厚海 陽香「非日常」(郡山東1年)



(写真展の様子、みんなの文化センター入口)



(写真展の様子、みんなの文化センター1階)

放送専門部

専門部委員長 中野加奈子 〈いわき光洋高等学校〉

放送専門部は、アナウンス・朗読・番組制作等、日頃の校内放送で培った技術を発表する場として、NHK 杯全国高校放送コンテストと全国高等学校総合文化祭を2つの大きな軸として活動しています。今年度はNHK 杯において、ラジオドキュメント部門に出場した4校4作品がすべて準決勝に進出。そのうち会津学鳳高校が優良賞、磐城桜が丘高校が入選という成績を収めました。また、全国高等学校総合文化祭信州大会では、磐城高校が制作した「ふたつの異名」という作品が、ビデオメッセージ部門で優秀賞に輝きました。同校は東北高等学校放送コンテスト宮城大会でもアナウンス部門で最優秀賞を受賞しました。

主なコンテストの結果は以下の通りとなっています。

(1) 第65回全国高校放送コンテスト福島県大会

期 日：平成31年6月3日～4日・8日

会 場：NHK 福島放送局

とうほう・みんなの文化センター

参 加：19校、92件

○研究発表部門

最優秀 磐城高校

「練習してますか？」



第42回全国高等学校総合文化祭信州大会放送部門
ビデオメッセージ部門
優秀賞 磐城高等学校
作品名 「ふたつの異名」

優 秀 いわき光洋高校

「おすすめ！音声術」

○アナウンス部門

最 優 秀 鈴木ひとみ（磐城桜が丘）

優秀1席 大石田 萌（郡 山）

優秀2席 平野 実優（会津学鳳）

優秀3席 續橋 唯織（郡 山）

優秀4席 塚本 千鈴（福 島 東）

優秀5席 草野 愛菜（桜の聖母）

○朗読部門

最 優 秀 遠藤 愛実（磐 城）

優秀1席 中村 天音（桜の聖母）

優秀2席 坂本 安紀（磐 城）

優秀3席 菊地 大翔（会津学鳳）

優秀4席 岸本 春花（会津学鳳）

優秀5席 田村 紀瑛（安積黎明）

○ラジオドキュメント部門

最 優 秀 いわき光洋高校 「然ちゃん」

優秀1席 磐城桜が丘高校

「逃げるという選択」

優秀2席 会津学鳳高校 「これしかなかった」

優秀3席 郡山高校 「5色の音色」

○テレビドキュメント部門

最 優 秀 磐城高校 「7年」



第22回東北高等学校放送コンテスト宮城大会
テレビキャンペーン部門
最優秀賞 磐城桜が丘高等学校
作品名 「フーガと探調」

優秀1席 橘高校 「ザ・リカバリー」

優秀2席 安積黎明高校

「あいさつ事故対策協議会」

優秀3席 西会津高校 「ふるさとを結ぶ」

○創作ラジオドラマ部門

最優秀 福島東高校

「ヒーローになりたくて」

優秀 会津学鳳高校

「生きているあなたへ」

○創作テレビドラマ部門

最優秀 磐城高校 「うさぎとかめ」

優秀 安積黎明高校 「嘘」

(2) 第18回東北高等学校アナウンス朗読コンテスト

期日：平成30年7月2日～3日

会場：岩手県八幡平市立

細野コミュニティセンター

○アナウンス部門

入選 平野 実優（会津学鳳）

○朗読部門

優良賞 岸本 春花（会津学鳳）

優良賞 山口久玲愛（尚志）

入選 舘 睦海（いわき総合）

(3) 第65回 NHK 杯全国高校放送コンテンス

期日：平成30年7月24日～26日

会場：NHK ホール

国立オリンピック記念青少年総合センター

○研究発表部門

研究奨励 磐城高校 「練習してますか？」

研究奨励 いわき光洋高校

「おすすめ！音声術」

○アナウンス部門

入選 大石田 萌（郡山）

○ラジオドキュメント部門

優良賞 会津学鳳高校 「これしかなかった」

入選 磐城桜が丘高校

「逃げるといふ選択」

制作奨励賞 いわき光洋高校 「然ちゃん」

制作奨励賞 郡山高校 「5色の音色」

○テレビドキュメント部門

優良賞 磐城高校 「7年」

(4) 第42回全国高等学校総合文化祭信州総文放送部門

日程：平成30年8月9日～10日

会場：カノラホール

○ビデオメッセージ部門

優秀賞 磐城高校 「ふたつの異名」

(5) 第23回福島県高校新人放送コンテスト

期日：平成30年11月11日～12日

会場：とうほう・みんなの文化センター

参加：20校、155件

○アナウンス部門

最優秀 菊地 希紋（橘）

優秀1席 塚本 千鈴（福島東）

優秀2席 佐藤 一貴（磐城）

佳作 三富 春佳（会津学鳳）

佳作 西山 玲那（磐城桜が丘）

佳作 渡邊 一史（郡山）

佳作 綿引 美沙（磐城桜が丘）

佳作 笠原 麻由（安積黎明）

佳作 本田 永遠（葵）

佳作 國分萌々乃（郡山）

佳作 大内 玲奈（磐城）

佳作 北村 純大（原町）

○朗読部門

最優秀 岸本 春花（会津学鳳）

優秀1席 横田有希乃（会津学鳳）

優秀2席 青柳 芽依（磐城）

佳作 菊地 大翔（会津学鳳）

佳作 舘 睦海（いわき総合）

佳作 豊島 怜勇（磐城）

佳作 田村 紀瑛（安積黎明）

佳作 遠藤 夢歩（磐城桜が丘）

佳作 芦口まな伽（磐城）

佳作 阿蘇あかり（福島東）

佳 作 林 美沙子 (桜の聖母)

佳 作 佐藤 広大 (会津学鳳)

○オーディオピクチャー部門

最 優 秀 いわき光洋高校 「森のバトン」

○ビデオメッセージ部門

最 優 秀 磐城高校 「名のみなりけり」

優 秀 安積黎明高校 「流れに拓く」

○ラジオキャンペーン部門

最 優 秀 小野高校

「里山に響け 鬼ヶ城太鼓」

優秀1席 いわき光洋高校 「人に伝える」

優秀2席 郡山高校 「残響」

優秀3席 小野高校

「そういうものに わたしはなりたい」

優秀4席 会津学鳳高校 「郷の音」

優秀5席 磐城桜が丘高校 「道して？」

○テレビキャンペーン部門

最 優 秀 磐城高校 「青春には音がある」

優秀1席 磐城桜が丘高校 「フーガと探調」

優秀2席 会津学鳳高校 「退屈な日」

優秀3席 いわき光洋高校

「太陽からのエール」

優秀4席 小野高校 「青春 ～私たちの今～」

優秀5席 桜の聖母学院高校

「Music Stationery」

(6) 第22回東北高等学校放送コンテスト宮城大会

期 日：平成31年2月9日～10日

会 場：多賀城市文化センター

○アナウンス部門

最優秀賞 佐藤 一貴 (磐 城)

優 良 賞 渡邊 一史 (郡 山)

奨 励 賞 塚本 千鈴 (福 島 東)

奨 励 賞 菊地 希紋 (橋)

○朗読部門

優 良 賞 舘 睦海 (いわき総合)

入 選 豊島 怜勇 (磐 城)

奨 励 賞 岸本 春花 (会津学鳳)

○ラジオキャンペーン部門

優 良 賞 小野高校

「そういうものに わたしはなりたい」

優 良 賞 小野高校

「里山に響け 鬼ヶ城太鼓」

○テレビキャンペーン部門

最優秀賞 磐城桜が丘高校 「フーガと探調」

優 秀 賞 磐城高校 「青春には音がある」

優 秀 賞 会津学鳳高校 「退屈な日」

囲碁専門部

専門部委員長 鈴木 仁孝 〈田島高等学校〉

1. はじめに

「各種大会を通じて囲碁の普及をはかるとともに、囲碁を通して情操豊かな生徒の健全育成をはかる」を目標として掲げ、1年間活動を続けてきました。

大会結果を総括すると、男女とも高校入学以前に碁を覚えた実力者が順当に結果を出しました。しかし、そのような生徒だけでなく刺激を受けた周りの生徒も着実に成長しており、学校全体の底上げにつながっています。一方、各大会とも参加者がさらに減少し、裾野を広げる活動が必要と感じた年でした。

2. 平成30年度の活動状況

(1) 第42回全国高等学校総合文化祭囲碁部門・福島県大会

4月29日(日) 橘高校

参加校6校 参加者数28名

◎Aリーグ戦

優勝 斎藤 夕希(福島西)
準優勝 鈴木 隆平(いわき総合)
第3位 青柳 南美(橘)

◎Bリーグ戦

優勝 佐藤 優馬(橘)
準優勝 塩澤 紘明(福島西)

第3位 本田 大貴(橘)

(2) 第37回県高等学校総合文化祭囲碁部門 第42回全国高校囲碁選手権大会福島県大会

6月23日(土)～24日(日) 福島高校

参加校4校、参加者数31名

◎男子団体戦

優勝 橘高校A
準優勝 橘高校C
第3位 橘高校B

◎男子個人戦

優勝 半田紘太郎(橘)
準優勝 蓬田 陽規(橘)
第3位 菅野 友哉(橘)

◎女子団体戦

優勝 橘高校A
準優勝 福島高校
第3位 橘高校B

◎女子個人戦

優勝 斎藤 夕希(福島西)
準優勝 佐藤 実穂(橘)
第3位 青柳 南美(橘)

(3) 第42回全国高校囲碁選手権大会

7月24日(火)～26日(木)日本棋院

◎団体戦・男子1次リーグ(C組)

橘高校 1勝2敗



囲碁



囲碁

◎団体戦・女子1次リーグ (M組)

橘 高 校 2勝1敗

◎個人戦・男子1次リーグ (D組)

蓬田 陽規 (橘) 1勝2敗

◎個人戦・男子1次リーグ (N組)

半田紘太郎 (橘) 1勝2敗

◎個人戦・女子予選リーグ (W組)

斎藤 夕希 (福 島 西) 2勝1敗

(4) 第42回全国高等学校総合文化祭 囲碁部門

8月7日(火)～8月8日(水)

長野県大町市・黒部観光ホテル

◎団体戦 福島県チーム

2勝4敗 (第33位) (48チーム参加)

主将 半田紘太郎 (橘)

副将 青柳 南美 (橘)

三将 佐藤 実穂 (橘)

◎個人戦 男子 鈴木 隆平 (いわき総合)

3勝3敗 (第24位) (48名参加)

◎個人戦 女子 斎藤 夕希 (桜の聖母)

4勝2敗 (第8位) (44名参加)

(5) 第32回福島県高校囲碁新人大会

9月29日(土) 橘高校

参加校3校、参加者17名

◎男子個人戦A

優 勝 半田紘太郎 (橘)

◎男子個人戦B

優 勝 橘 悠也 (橘)

準優勝 本田 大貴 (橘)

第3位 山崎 一輝 (橘)

◎女子個人戦A

優 勝 斎藤 夕希 (福 島 西)

準優勝 青柳 南美 (橘)

第3位 佐藤 実穂 (橘)

◎女子個人戦B

優 勝 海野 瑤佳 (福 島)

準優勝 扇田 凜 (橘)

第3位 伊藤 秋奈 (橘)

(6) 第32回東北地区高等学校囲碁選手権大会

11月9日(金)～10日(土) 青森県八戸市

◎県対抗戦の部

男子0勝5敗 (第6位)

主将 半田紘太郎 (橘)

副将 橘 悠也 (橘)

三将 本田 大貴 (橘)

女子4勝1敗 (第2位)

主将 斎藤 夕希 (福 島 西)

副将 青柳 南美 (橘)

三将 佐藤 実穂 (橘)

◎級位者戦の部・男子 (11名参加)

山崎 一輝 (橘)

2勝3敗 (第7位)

◎級位者戦の部・女子 (10名参加)

扇田 凜 (橘)

3勝2敗 (第3位)

海野 瑤佳 (福 島)

3勝2敗 (第4位)

(7) プロ棋士・教員 OB による合同強化合宿

3月9日(土)～10日(日)



囲碁



囲碁

福島市穴原温泉いづみや旅館

参加校3校 参加者数16名

1泊2日の日程で行った。参加生徒はプロ棋士（青木喜久代八段、宮崎龍太郎七段）との指導碁、教員OBや現役教員との指導碁、交流会等を通して、棋力向上に努めた。

(8) 第13回全国高等学校選抜囲碁大会

3月16日(土)～3月17日(日)

大阪府東大阪市・大阪商業大学

◎女子団体戦

橘高校（青柳 南美、佐藤 実穂、扇田 凛）

1勝3敗（第14位）（16チーム参加）

◎女子個人戦 斎藤 夕希（福島 西）

1勝3敗（第13位）（16名参加）

◎女子9路盤戦 佐藤 実穂（橘）

予選リーグ 2勝5敗

順位決定戦 1勝2敗 14位

（16名参加）

3. おわりに

「現代最強の棋士はAI」といっても不思議でないぐらい、囲碁界はコンピュータによって変革してきた。「人間」のプロ棋士は囲碁AIを参考にし、「最善・最強」を研究するようになった。国民栄誉賞を受賞した井山裕太が5冠に後退したのは、新時代の若手棋士たちが囲碁AIを参考に研究したことも大きい。

トッププロが話題になるかと思いきや、去年は期待の新星が登場。仲邑菫である。10歳での入段は史上初。その実力も現役トッププロの折り紙付

きで、そのあどけなさからメディアでも取り上げられるようになった。

これを機に、囲碁に興味を持ってくれる人が増えてくれるとありがたいが、福島県においては子ども教室が圧倒的に不足していることもあり普及面で問題がある。

3年前から高文連主催「活動優秀校公演」での普及活動を行っている。今年も30名程度の方が来てくれた。ただ、我々の狙いである小中学生の参加は少ない。その上、入門指導はできてもその後のフォローがないと続けてくれることは難しい。

福島県の高校囲碁界は県北地区の学校が中心となり活動しているが、他地区からの参加が少ないし、数自体も減少している。子どもたちへの指導に熱意のある人が他地区にいないと普及は難しいのか。

囲碁の教育的効果は絶大である。最近の研究で囲碁は右脳と左脳をバランス良く鍛えるのに良いらしい。このような効果を多くの大人（教育者）は知るべきである。多くの大人が関心を示すことがやはり普及には不可欠である。

私は一昨年、日本棋院の副理事長である山城宏先生とお話をする機会があった。山城先生は各都道府県に最低1か所、囲碁をまちづくりに取り上げる拠点を作りたいとおっしゃっていました。囲碁界と行政がコラボすればその力は大きいだろう。喜多方市では将棋まつりを開催していることを利用し、小中学校で将棋活動を取り入れるようだ。このような動きが囲碁にも広がることを期待したい。それが将来の高校囲碁界の発展につながるようになるだろう。



囲碁

将棋専門部

専門部委員長 松村 茂郎 〈福島高等学校〉

《大会成績》

◎5月19日 安積高等学校

第42回全国高等学校総合文化祭将棋部門福島県大会・第54回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会

男子団体

優 勝（全国大会出場）

いわき秀英高校

（松本 悠希、青田 功暉、渡辺 陸斗）

準優勝

安積高校

（橋本 皇聖、石塚 優陽、高橋 大河）

第3位

福島高校

（柳田 瞭、熊谷 恭平、木口創太郎）

男子個人

優 勝（全国大会出場）

磐城高校 上遠野太一

準優勝（ ）

福島高校 野田 大輔

第3位

郡山萌世高校 矢吹 拓巳

女子個人

推 薦（全国大会出場）

いわき秀英高校 秋葉 眞子

安積黎明高校 佐々木紫苑

*男子団体は、1年生2名、2年生1名のいわき秀英高校が優勝し、新風を吹かせた。個人戦は実力者である男子の上遠野、野田、女子の秋葉が順当に力を発揮し全国大会出場を決めた。また、女子の佐々木も初出場ながら健闘し、全国大会への切符を手にした。

◎8月9～10日 長野県千曲市

第42回全国高等学校総合文化祭将棋部門・第54回全国高校将棋選手権

男子団体

いわき秀英高校 予選0勝4敗

男子個人

磐城高校 上遠野太一

予選3勝1敗、決勝T1勝

福島高校 野田 大輔

予選3勝1敗、決勝T0勝

女子個人

いわき秀英高校 秋葉 眞子 予選2勝2敗

安積黎明高校 佐々木紫苑 予選1勝3敗

*男子個人の上遠野、野田が予選を突破したが、決勝トーナメントの1回戦でまさかの同県対決となってしまった。県大会決勝同様、上遠野が勝利したが、2回戦で北海道の選手に敗退をした。

◎7月21日 福島民友新聞社

第31回全国高等学校将棋竜王戦福島県予選大会個人

優 勝（全国大会出場）

郡山萌世高校 矢吹 拓巳

準優勝 福島高校 熊谷 恭平

第3位 白河高校 小林 隆仁

*3年生の矢吹が最後のチャンスを掴み、見事全国大会への切符を手にした。上遠野、野田が出場しない中で、他の選手との格の違いを見せつけた形になった。

◎8月20～21日 福岡市「電気ビル共創館」

第31回全国高等学校将棋竜王戦
出 場

郡山萌世高校 矢吹 拓巳

◎11月10日 安積高等学校

第27全国高等学校将棋新人大会福島県大会

男女同一個人

優 勝（東北・全国大会出場）

磐城高校 齊藤 貴志

準優勝（東北・全国大会出場）

福島高校 熊谷 恭平

第3位（東北大会出場）

白河高校 小林 隆仁

第4位（東北大会出場）

福島高校 柳田 瞭

第5位（東北大会出場）

福島高校 木口創太郎

女子個人

推 薦（東北・全国大会出場）

安積高校 橋本 萌香

安積高校 掛谷 憩奈

安積高校 佐藤 妃菜

* 出場者数が過去最高の63名となった。その中で1年生の齊藤と熊谷が1位、2位を占め、全国大会の出場権を得た。また、女子は初心者であった安積高校の橋本、掛谷、佐藤の3名がめきめきと力をつけ、全国大会に推薦された。

◎12月14～15日 プラザホテル山麓荘

第19回東北地区高等学校将棋新人大会

男子個人

第17位 磐城高校 齊藤 貴志

第19位 福島高校 木口創太郎

第22位 福島高校 柳田 瞭

第23位 白河高校 小林 隆仁

第26位 福島高校 熊谷 恭平

女子個人

第27位 安積高校 佐藤 妃菜

第28位 安積高校 掛谷 憩奈

第29位 安積高校 橋本 萌香

* 本県選手団は、1年生を中心とした若い選手が多いため、東北地区の実力者とはやや力の差が感じられる結果となった。

◎1月31日～2月2日 岡山県 ダイヤモンド瀬

戸内マリンホテル

第27回全国高文連新人将棋大会

男子個人

予選2勝2敗 磐城高校 齊藤 貴志

予選2勝2敗 福島高校 熊谷 恭平

女子個人

予選3勝2敗 安積高校 掛谷 憩奈

予選1勝4敗 安積高校 橋本 萌香

予選1勝4敗 安積高校 佐藤 妃菜

* 男子の齊藤、熊谷および女子の掛谷は、あと1勝で決勝トーナメント出場権を得るところまで健闘をした。特に掛谷は初心者であったにもかかわらず、全国大会で3勝という結果を残したことは驚くべきことである。男女共に今後の活躍が大いに期待される。

おわりに

将棋界の新星藤井聡太の登場に刺激をされてか、今年度は1年生の部員が大幅に増えた。この中には初心者も少なからずいる。また、将棋部がない学校からの個人出場も増えた。大変喜ばしいことである。現在の高校生たちは間違いなく「藤井世代」と呼ばれるであろうし、この先何十年も藤井聡太と共に将棋を楽しんでいくことになるだろう。次年度以降も、本県の各校将棋部に多くの生徒が入部してくれることを期待したい。

また、次年度は福島市において第28回全国高文連新人将棋大会が開かれる。本県選手団の中から上位入賞者がでて、地元開催に花を添えてくれることを願うものである。



弁論専門部

専門部委員長 猪俣小百合〈会津高等学校〉

弁論専門部は発足して10年の節目を迎えました。常設の加盟校は県内で1校、主な活動内容は全国各地で開催される弁論大会への参加と県大会の開催です。

10年間歴史を重ねてきた県大会についてですが、常設の加盟校が1校のみという状況の中で大会参加者を募り、永続的に大会を企画・運営することは極めて困難であることから、残念ながら次年度以降、開催を見合わせるようになりました。これまで県大会上位入賞者を全国総合文化祭出場者として推薦しておりましたが、今後は全国規模の弁論大会の結果がその代替となります。

今年度の活動内容は以下のとおりです。

〈第42回全国高等学校総合文化祭〉

○期 日：平成30年8月7日～8日

○場 所：長野県東御市

○参加者及び演題

秀島由里子（会津高等学校）

「霧深し」

古川 優生（会津農林高等学校）

「飛べ！ロケットストーブ！！」

～再生可能エネルギーの普及を目指して～

〈第10回福島県高等学校弁論大会

（第43回全国高等学校総合文化祭弁 論部門福島県予選）

○期 日：平成30年10月29日

○場 所：会津高等学校

○参加者数：県内5校より8名参加

○入賞者及び演題

最優秀賞

真田 理実（会津高等学校）

「多様性を認める社会のために」

論 旨

発達障害をはじめとする様々な障害、病気を抱える人が不当に差別を受けて苦しんでいる。障害や病気はその人の属性の一つで全てではない。多様性を認め、同じく生を持つ者が対等に向き合うことができる社会を構築したい。

優 秀 賞

安生真奈美（岩瀬農業高等学校）

「植物は人を笑顔にする」

論 旨

原発事故と脳梗塞の影響で元気をなくしていた祖母が花づくりを通して笑顔を取り戻した。花は隠された底知れない力を持っている。私は高校で園芸を学び、花の力で高齢者や病人を癒やす園芸療法士になりたい。

優 良 賞

高橋 裕可（福島明成高等学校）

「家畜排泄物処理の現状と私に出来ること」

論 旨

家畜糞尿の不適切な処理は、人間の健康や環境に悪影響を及ぼす。河川や地下水に流出・浸透させず有効活用できる処理方法をとることが大切だ。私は将来、畜産分野の問題である悪臭や、家畜動物から排出されるメタンといった環境問題に関する研究を行いたい。

○大会概要

年度当初、郡山市中央公民館で開催する予定でしたが、参加者が8名と少数であったため、弁論原稿と弁論の録画映像による審査に切り替えて大会を実施しました。8名の弁士は、それぞれ自分の思いを心を込めて発表していました。最優秀

賞・優秀賞の2名は第43回全国高等学校総合文化祭（佐賀大会）に出場します。

〈第72回全国高等学校弁論大会〉

○期 日：平成30年5月3日

○場 所：愛知県名古屋市
東海高等学校

○参加者及び演題

上島 花菜（会津高等学校）
「こころを聴くこと」

中日新聞社賞受賞（第4位相当）

〈第66回全国高等学校決勝弁論大会〉

○期 日：平成30年9月22日

○場 所：群馬県館林市
群馬県立館林高等学校

○参加者及び演題

真田 理実（会津高等学校）
「葛藤の先にあるものを信じて」

小倉百人一首かるた専門部

安積黎明高校かるた部部长 西牧 美渚

「一瞬の美」 ～～～かるたの魅力～～～



かるた競技は、「暈の上の格闘技」とも言われる激しい競技です。選手たちは、1試合約1時間半、静寂の中で、読み手の声と百人一首の札に全神経を集中させ、「一瞬の技」を競います。

こんにちは。小倉百人一首かるた専門部です。
私たちの今年度の主な戦績をご報告します。

平成30年7月8日に宮城県で行われた「第12回高校かるた夏の東北大会」に出場しました。予選リーグは順当に勝ち進み、決勝は青森Aチームと戦いました。惜しくも敗れ準優勝となりましたが、多くの課題が見つかり、近江に繋がる経験になりました。

同月27、28日滋賀県近江神宮で行われた「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会」では、二連覇を目標に挑みましたが、予選リーグで、大分県中津南高校に敗れ悔しい結果に終わりました。

8月10、11日に長野県で開催された「全国高等

学校総合文化祭」では、競技の部に出場しました。予選リーグでは、群馬・岐阜・青森と対戦し、2勝1敗で決勝リーグに進みました。決勝リーグ1回戦は新潟県と対戦して勝利し、2回戦では静岡県と対戦しました。福島県チームはここで敗退となりましたが、第5位の奨励賞をいただくことができました。

11月18日に福島県で行われた「第25回東北・北海道高校小倉百人一首かるた新人大会」が、新体制になってから初の団体戦となりました。予選リーグでも決勝でも接戦を繰り広げ優勝を果たしました。

3月16、17日には、各地域の代表都道府県が出場する「全国高校生かるたグランプリ」では、8チーム中4位でした。入賞は逃しましたが、それぞれの改善点が多く見つかり、夏へ向けてのいいきっかけになりました。

この他にも、個人戦ではそれぞれの部員がたくさんの結果を残しています。福島県は他県に比べてかるたがあまり普及していないのですが、本県のかるた専門部から競技かるたの楽しさを発信したいと思います。

今年度も多くの人に支えられて、活動することができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに「楽しく、かっこよく、礼儀正しく」誰からも応援されるチームになれるよう部員一丸となって精進していきます。

「福島勝つぞ!!」「よっしゃ!」

----- (主な大会成績) -----

◇2018年5月

第13回福島県高等学校小倉百人一首かるた大会
優 勝 西牧 美渚 (安積黎明高2年・四段)

◇2018年6月

第11回福島県高等学校対抗・小倉百人一首かるた選手権大会

優 勝 安積黎明高校かるた部 (※11連覇)
準優勝 田村高校数学部

□2018年7月

第11回東北北海道高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

団体準優勝 『福島県選抜チーム』

■2018年7月

第40回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

個人戦優勝

B4級 高力愛由美 (安積黎明高3年)
C1級 立川 咲 (会津学鳳高2年)



かるた取り札

■2018年8月

第42回全国高総文祭信州総文祭2017・小倉百人一首かるた部門

競技の部

奨励賞 (団体ベスト8)

主将 西牧 美渚 (安積黎明高2年)
副将 奥田 新菜 (〃 3年)
三将 木村 薫 (田 村 高3年)
四将 高力愛由美 (安積黎明高3年)
五将 立川 咲 (会津学鳳高2年)
六将 西村 奈恵 (安積黎明高2年)
七将 大内 瑤稀 (〃 3年)
八将 上田 彩加 (〃 2年)

◇2018年10月

第37回福島県高等学校総合文化祭『小倉百人一首かるた部門』

第11回小倉百人一首かるた 秋の福島大会

優 勝 西牧 美渚 (安積黎明高2年・四段)

□2018年11月

第25回東北北海道高等学校小倉百人一首かるた新人大会

団体優勝 『福島県選抜チーム』

■2019年3月

第14回全国高校生かるたグランプリ

団体 4位



かるた払い

新聞専門部

専門部委員長 吉田 義仁 〈郡山北工業高等学校〉

(1) 組織と歴史

新聞専門部の母体である福島県高等学校新聞連盟（県新連）は、昭和28年創設以来長い歴史と実績を持ち、福島県の高校新聞活動の中核を担ってきました。

現在は、県大会（総会）と学校新聞作成技術講習会をそれぞれ年に1度、県内各地区（支部）持ち回りで開催しています。また、県北、県南、会津、いわき各地区においても地区大会（総会）などを実施して、各校新聞部（委員会）の情報交換、新聞作成技術の向上のための批評会などを行っています。東日本大震災により大きな被害を受けた相双地区も、これから支部活動が再建されていくことになります。

(2) 新聞専門部の主な活動

①県大会（総会）

「17校120人が参加、11月に郡山市で開催」

平成30年度県高等学校新聞連盟県大会（連盟長校 若松商業高校／会津支部）は11月8日、郡山市の市労働福祉会館で行われました。17校から生徒、顧問約120人が参加し、総会では29年度庶務・会計報告などが承認されました。



講演する矢内氏

続いて20班に分かれて批評会が行われ、提出された9校の紙面を批評しました。講演会も行われ、福島民友新聞社の矢内靖史編集委員・写真課長が「報道写真と撮影方法」のテーマで講演しました。矢内氏は、実際に掲載した写真を示し、現場経験談を交えなが

ら、報道写真の撮影方法などを具体的にアドバイスして好評を得ました。



17校が参加した県大会

また、全国総文祭報告が行われ、8月の信州総文祭に参加した福島、安積、郡山東、相馬の4校が、全国大会で学んだことなどについて報告しました。（総文祭は④で詳報）

②学校新聞作成技術講習会

「8月に郡山市で実施、13校90人が学ぶ」

平成30年度学校新聞作成技術講習会は、8月31日に郡山市の市労働福祉会館で行われ、県内13校の生徒90人が参加しました。高校新聞を作成する各校の新聞部員（委員）が、新聞編集の技術力を向上させようと毎年1度実施しています。

参加部員は「学校新聞のねらいと役割」、「編集会議と取材の方法」、「報道記事の書き方」、「割り付けと校正の技術」、「報道写真の撮り方」の5分科会に分かれ、各校の顧問などから具体的技術を学びました。報道写真分科会では外部講師として福島民報社の猪俣広視写真報道部長を招き、プロの視点から実践的のアドバイスを受けました。

この日は新聞クリニックも行われ、猪狩利一元県高文連新聞専門部委員長が、応募した9校の本紙、速報版について、詳しく指導、助言しました。

③各支部大会（支部総会）

「各支部で開催し、総会や研修会など行う」

県内各支部では、震災以降実施できない相双地区を除いて、各地区の日程で支部大会（総会）を開催しました。このうち、県南支部では6月18日に郡山市の市中央公民館で支部大会を実施しました。



新聞批評する県南支部大会参加者

6校から生徒、顧問64人が参加し、総会、批評会を実施しました。また、朝日新聞社の菊池功福島総局長兼原発取材センター長が「真実に迫る取材」をテーマに講演しました。

④全国総合文化祭（信州総文祭）

「福島、安積、郡山東、相馬の入賞4校が出場」

第42回全国高等学校総合文化祭「2018信州総文祭」の新聞部門は8月9日から11日にかけて、長野県長野市の若里市民文化ホールで行われました。同部門には第22回全国高校新聞年間紙面審査賞に入賞した47校を始め133校約440人の生徒、顧問が参加し、福島県からは同賞に入選した福島、安積、郡山東、相馬の4校（各校生徒2人、顧問1人）が参加しました。

参加者は8つのコースに分かれて長野県内の歴史や文化などを取材し、48の班ごとに交流新聞を作成しました。また、安積黎明高校新聞委員会生徒2人が県高文連会報取材で派遣され、開会式や



上写真／信州総文祭で交流新聞を作成する各都道府県からの参加者
下写真／総文会場に展示された福島県参加校作成の活動紹介壁新聞

各部門会場などを取材しました。

31年度の全国総文祭新聞部門は佐賀県佐賀市で、7月29日から31日にかけて開催されます。本県からは、第23回紙面審査賞に入選した福島、郡山東、郡山北工業、相馬の4校が出場します。

⑤県活動優秀校公演

「震災被害を報道する各校新聞を掲示」

第37回県高等学校総合文化祭活動優秀校公演は12月16日、福島市のとうほう・みんなの文化センターで開催されました。新



聞専門部では会場に展示パネルを設置し、東日本大震災についてこれまで報道してきた各校の新聞を掲示し、紹介しました。多くの入場者が足を止めて、見入っていました。

⑥滋賀県立彦根東高校新聞部との交流取材活動

「福島、相馬など7校新聞部と宿泊取材交流」

福島県の震災被害と復興を報道し続ける彦根東高校新聞部の12人は12月15、16の両日、県高文連の招きで福島市を訪れ、活動優秀校公演でこれまでの活動を紹介しました。また滞在中、福島、安積、安積黎明、郡山東、郡山北工業、相馬、会津ザベリオの県内7校32人の新聞部員（委員）と宿泊交流しました。参加者は、県教育委員会の鈴木淳一教育長や葛尾村教育長小野田敏之夫妻らから被災体験を合同取材するなどしました。彦根東高校は、11年連続で年間紙面審査賞最優秀賞を受賞している国内屈指の実力校で、参加各校にとっては貴重な経験となりました。



鈴木教育長を合同取材する参加者